

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

盂蘭盆の季節を迎えて……

気がついたら今年もお盆です。月日の経つのは：・と言いますが、ほんとですね。大人になつてから特に時間の経つのが早い気がします。ある人はそれは経験の違いによる、と言いました。子供にとつての一年は、数年しか生きていないうちの一年です。未知の事ばかりで、長く感じる。大人は数十年生きたくちの一年です。何度も経験して短く感じる、という事です。時計の針は子供も大人も同じに動いているのに、面白いものです。また、楽しい時間ほど早く過ぎ、つらい時間は長く感じるなんて言う事もあります。案外自分の感覚なんて当てにならないものなかもしれませんね。時間に振り

回されて一年の後半を過ごすか、時間を使いこなして来年を迎えるか。折角のお盆ですから先づ立ち止まって、考えてみるのも良いかもしれません。宝泉寺では「盂蘭盆会総供養」を行います。ご案内は今年新盆の方、また近年に送つておりますが、当日の飛び込み参加も大歓迎です。裏面要領で行いますのでどうぞご参加頂きたく思います。

ご質問お問い合わせは宝泉寺（〇四二一六六一―三三五三）まで。

棚経のご希望も受け付けています。こちらなるべく早めにお寺までご相談ください。



お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。

- ①テーブルにマコモを敷く
- ②四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③位牌香炉燭台花等を飾る
- ④茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子（みずのこ）」、椀に清水を満した「閻加水（あかみず）」を供える
- ⑥膳をつくり供える
- ⑦その他、そうめん、果物など夏の食物を供えてください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！

法話

回向のはなし

法事や供養の時、いわゆる「お経」のあとに「回向文」というのをお読みします。このお経は誰々のために読んでいるのですよ、という事を告げる言葉です。回向、とは「差し向ける」という意味で、「有り難いお経を読んだその功德を自分以外の誰かに差し向ける」その宣言の為に読まれるのです。

たとえば、般若心経という「お経」を木魚に合わせてお唱えし、続けて本尊回向という「回向文」を読みます。「上來つしんで般若心経を誦誦す。集むる所の功德は南無東方薬師瑠璃光如来……」

この場合、「般若心経を読む功德を薬師如来様に捧げます」という内容になっています。続けて「大悲呪」というお経をお唱えし、在家回向をお読みします。お経の功德を、亡くなったご先祖様にお捧げして、ご供養申し上げるという言葉が書かれています。お経と回向文は常にワンセットにして読まれるのです。

実はこの回向文に代表される回向、功德を自分以外に差し向ける、という考え方は日本の仏教特有の考え方なんだそうです。今年二月、坊さんばかりの団体でミャンマーに行つてきました。目的は太平洋戦争でお亡くなりになった方々の慰霊碑を巡拝

すること。ミャンマーは東南アジア伝統の仏教の大変盛んな国。慰霊碑のある現地のお寺には、巨大で黄金色の釈迦如来像が祀られ、沢山の信者さんたちが思い思いに参拝しています。



ミャンマーの釈迦如来像 日本より華やか派手?

さすが皆さん、そらでお経を読む。国民性そのもののように慎ましく、遠慮がちに小声でしたが、一生懸命に読経なさっているその姿！スバラしい!!と感心している、そのミャンマー寺院のご住職がやってきました。ミャンマー語のお経が聞けるゾと期待していると、あれ？全然聞こえない！ご住職も小声で読経なさっている。

僕らは「お経は大きな声で」と教育されていますから不思議でしょうがありません。あとでその訳を聞きました。東南アジアの仏教ではお経を読んだり、人助けをしたり、布施をしたりした「功德」は基本的に自分のもの。その功德を一生のうちに沢山ためておくと、死後、今より良い世界に生まれ変わる事が出来るとされている

そうです。ということ、ミャンマーお経は良い世界に生まれ変わるために読んでいくわけで、べつに人に聞かせる必要がない。だからみんな声が小さいんです。遠慮してるわけではなかったのです。



ミャンマー最大の日本人慰霊碑で参拝

ではなぜ反対に、日本では大きな声でお経を読むのか。ここで「回向」が大きく関係するのです。日本の仏教とりわけ禅の世界では「自未得度先度他（我、未だ渡らざりといえども先ず他を先に渡す）」という教えを重要視します。「私自身はまだ悟り救われていないけれども、まず他の人を救つていこう」自己の救いを求めるのなら、同じように苦しみの世界に生きる他の人たちに目を向けなくては行けない。だから自分で読んだお経であつても、その功德を沢山の人のために受け取ってもらいたい。そこで本堂中に聞こえるデッカイ声で回向して、読経の功德を一緒に座っている人たちにみんなに差し向けて、みんなのものにしてしまうのです。



数千におよぶ仏塔を望む

ここでもまた回向するのです。例えばお焼香。いづもどんな事を考えていますか？「亡き人がどうか幸せであるように」そういう思いでいらつしやるのではないのでしょうか。その時、「たまって」いたお経の功德を自分のために保存しておかないで、亡き人のため差し向けて、供養としていくのです。功德はあくまでも自分以外のために捧げてしまふ。それが日本の仏教のルールなんです。その心がけがいつしか「仏の心」となり、我未だ渡らざりき、と思つていたのに、気がついたら自分自身もまた救われている。日本の仏教は「私もあなたも共に救われて、しあわせな仏になりましょう」というのが大事なところなんです。僕はとてもイイ考え方だと思つています。自分の事はおいといて、先ず人のために何かをしてあげよう、その尊い心掛けの宣言文が回向文。それは皆さんがご先祖様を思う気持ちを確かに仏さまにお伝えする、そんな証文の様なものです。今度のご法事の時にはよく聞いていってくださいね。皆さんのために一生懸命デッカイ声で読みますよ！

コラム 仏事に関する よもやまばなし



「寺院」のキャンペーンを掲げていると、いろいろな勧誘、広告、商品紹介がやってくる。一般に坊さんは世間知らずと思われているのか、良いカモだと思われるのか。一番多いのは金融商品の勧誘。「必ず儲かります！お寺様の利益になればと思っております！」大変親切に。だったらご自分で儲けて、その分お布施してくださいませ。

意外と多いのが、原稿依頼とお寺紹介しますという広告勧誘。「雑誌社の者ですが、終活に関する雑誌を発売します。原稿をいただけませんか？」「へえ、終活ってなに書いていいの？」遺言書やら葬儀の始末まで自分で決めておく、というのが流行だそうですが、だいたい坊さんがいま流行っている「終活」に好意的だともつたら大間違い。電話のお兄さんとやりとりする事数分、結局その原稿を掲載するのに何十万という広告料がかかるという。バカにしなさんなよ。てなもんです。「終活」「直葬」「墓じまい」と「家族葬」などなど、仏事に関する色々な新語が沢山出来ております。これほとんど雑誌やテレビが作った言葉。言葉を作る人は、なるべく「今はこれが流行っていますよー、もう当たり前前にみんなやっていますよー」と宣伝します。例えば葬場で茶毘に付すだけ、という葬儀(?)を「直葬」といつたのは何とNHK。手間も時間も何よりお金がかからない。たしかに以前から全く身寄りの居ない方のご葬儀として、火葬だけするということはありました。しかしそれはあくまで特殊な一部の例。しかし「テレビで言うんだから、そういうものか」とみんな思ってしまった。雑誌テレビはとりあえず売れたらそれで良いので、後の事情、個々の事例に責任持たなくていい。葬儀は故人の恩徳を偲び、離苦のけじめをつける大事な時間。なのに、そんな安易なだけのやり方を「推奨」されたら、家族は必ず後悔するぞ、と当時から仏教界の反発は大きかった。しかしマスコミの力は圧倒的でした。結局、大事な家族を「カンタンに」「直葬」した多くの家族は、ずっと後悔にさいなまれる事になってしまいました。長年つきあってきた人の最後が、カンオケにいられて、火葬するだけなんて。「よく考えたら、あんな風に通ってしまつて良かったのだからか」「去つて行く人は簡単で良いよ、というけれどもつとごちんとしたかった」後悔先に立たず、取り返しはつきません。

お戒名に使われている居士という称号。元々は在家の身分のまま禅林(禅宗のお寺)に入門し、修行をする男性の呼び方です。今でも居士林と言われる在家信者のための修行施設を持つお寺があり、出家修行者とともにお寺

{こ} あいうえお用語辞典 居士 (こじ)

を助けているところもあります。転じて、お戒名では「この方は生前、熱心な禅の修行者でした」という証明のために付けられるのです。頭を丸めなくても修行は出来るという事ですね。イイ事聞いた!

実行されるかどうか自分では確かめられない以上、最後の希望をかなえてくれるであろう、多くは家族、時には施設の人、後見人、などの人との関係が最も大事ではないかと思うのです。今の終活にはそういう視点が大きく欠けているのが、残念でなりません。

ご	あ	ん	な	い
<p>◎宝泉寺盂蘭盆会総供養(お盆会)</p> <p>日時：平成二十七年七月十六日(木) 午後四時より(受付開始三時)</p> <p>場所：宝泉寺別院大ホール</p> <p><small>最近新盆を迎えた方にはあらかじめご案内をしておりますが、どなた様でも参加歓迎です。当日受付で申し込みをしてください。</small></p>		<p>◎柵経(ご自宅での読経供養)</p> <p>ご希望の方は、早めに宝泉寺までご連絡くださいませ。</p> <p>宝泉寺 (042-661-3353)</p>		

大 事 な お 知 ら せ

当山併設「葬祭場宝泉寺別院」が開場以来20周年を迎えました。

これを記念して、使用料金改定を行いました。

檀信徒の皆様は今後、**霊安室、式場使用料共に無料**となります。これにより、これまでより更にお金の心配をせずにキチンと儀式を行えるものと思えます。

葬儀社の過当競争が激しくなり、インターネット受注など葬儀に関する様々なトラブルを良く耳にするようになりました。

万が一の時にはまず宝泉寺にお電話ください。

互助会などに参加している方も、まず宝泉寺へ。

今年に入ってから、一月の大分円福寺塔婆供養会、三月は当山彼岸会、四月の長期巡教佐賀県小城市地区、六月は富山県高岡市大本山国泰寺開山お説教、鎌倉大本山建長寺スペシャル法話会など、多くの機会に恵まれました。



国泰寺開山忌の虚無僧 (北日本新聞)

法話出講の思い出

佐賀県小城市で法話中の住職

高岡市大本山国泰寺は臨済宗15派の一つ。虚無僧の尺八でとても有名なお寺で、30人あまりの虚無僧を従えた参拝行列には、全国からカメラマンがやってくるほど。実は当山宝泉寺とも法脈のうえで大変強いつながりがあります。全山上げての開山忌法要で二席。管長猊下(本山で一番エライ和尚様)のお側で、とても緊張しましたが素晴らしい経験でした。

あちこちからお声を戴く事がとても嬉しいです。もつともつと勉強して、檀信徒の皆様にご恩返しが出来るようにがんばります!

オススメ図書

まず最初は「春秋社『闘う仏教・現代宗教論』」

大本山妙心寺前管長、河野大通老師と大本山仏通寺前管長で医師でもある対本宗訓老師の対談集です。震災時の禅僧の活動や医療、自死問題など非常に現代的な諸問題に禅の継承者である老師が語り合う、という実はとても珍しい本なんです。仏教的なお説教ではなく「禅僧が世相を斬る」的なおもしろさがありますよ。老師がこんな話するなんて! 一六〇〇円。

今号から住職が読んでみて面白かった本の中から、専門書以外、比較的簡単に手に入るものをご紹介します。

霊園だより

霊園管理事務所から

ジメジメとした日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。

梅雨が明けるとお盆の季節がやって参ります。管理事務所でもお花お線香を用意して皆様の墓参をお待ちしておりますのでぜひご利用ください。

圏央道の高尾山く相模原厚木方面が昨年開通して以来、高尾山ICの出口渋滞がすっかり解消され都心方面かた八王子南霊園までにかかる時間もとても短くなりました。まだ通った事のない方は料金ばかりですが一度ご利用してみたいかがでしょうか?

末筆では御座います皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

八王子南霊園
管理事務所 畑山